114
A 806
3-4

極秘

大正十一年四月
天限侯爵邸寄贈

海軍軍令部第三局

牌報第百九號

明治三十一年九月三十日　在清国　瀧川海軍中佐報告

北京ノ変動及新政失敗ノ原因

康有為一派カ清帝ニ昵近シ過般来雨ノ如キ上諭ヲ降下セシメテ諸制度ノ改革ヲ成就セシメントヤシキ原来康ノ一派ニハ政治上ノ経験者ナク又タ顕官ヲ保ツモノ絶カニ張蔭桓、徐致靖等ノ数人ニ過キサルヲ以テ正面ヨリ整々堂々タル改革ヲ断行センニハ勢ヒ孤弱ニシテ阻碍頗ル多ク到底完全ノ目的ヲ達スル能ハズシテ空シク失敗ニ終ルヤ明カナリ本月上旬本官康ニ面接シタルノ時問フニ改革ノ果シテ能ク成就シ得ベキヤ否ヤヲ以テセシニ彼ハ充分ノ見込ナキ旨ヲ告ケ尚ホ終リニ望ンテ書スルニ「止ムナクンバ両廣ノ地ヲ保タンノミト」是レ康カ明カニ我心情ヲ吐露シタルモノナリ彼ハ元来突飛急激ノ性質ヲ有シ嘗テ上海ニアッテ未タ進士トナラザリシ以前彼ハ大學ヲ評スルニ聖教ニ反スルノ偽物トナセリ又彼ハ一種ノ名譽心ニ富ミ凡ソ彼カ打算スル事業ハ右突飛急激ト名譽ノ如何ニ

No 10
1-1

眷戀スルヿ寧ロ忠臣愛國ノ念ヨリ遥カニ超過セリ然レ𪜈彼ハ時勢ニ恐レズ信ズル處ノ主義ハ之ヲ發表スルニ於テ敢テ忌憚ヲ避ケサルノ勇氣アリ是レ彼カ今回主謀者トシテ牛耳ヲ採リ又其門弟子ニ敬服セラレタル所以ナリ康ノ評大畧此ノ如シ其他梁啟超、譚嗣同、王照等ノ人物ニ至テハ素ヨリ康ニ比シテ下ルヿ教等アルカ上ニ彼等康ヲ初メトシテ元來目ニ外國ノ一丁字ナシ故ニ行政改革ニ於テモ歐米ノ制度ヲ彼此參照スル能ハズ唯彼等ハ總カニ我本邦カ維新以後ニ於ケル制度文物ノ如何ニ沿革シタルヤヲ歴史ヲ知ルヲ以テ之ヲ基準トシテ常ニ清帝ヲ勸誘シ皇帝ヲシテ全ク日本ニ依賴セシムルノ念ヲ發セシメタリ過般ノ上諭中所謂泰西ノ學ヲ講スルハ東洋ノ學ヲ講スルノ便利アルニ若カス云々以テ其眞情ヲ証スルニ足レリ

前述ノ如キ孤獨援ケ少キ康等カ心ニ恃ムトコロハ單ニ皇帝ノ信任ニアリ其信任ヲ失ハザランカ為メニハ常ニ皇帝ニ陪從シテ政治ノ指示ヲナスヲ要ス之カ為メ第一着ニ軍機處ニ我黨ノ士ヲ置キ天下ノ政道ヲ視聽セシムル為メ林旭、楊鋭、譚嗣同、劉光第等四人ヲ軍機章京ニ推薦セシメ樞機ニ參セシメ又我党ノ士ヲ作ルノ方法トシテハ人材ヲ推薦セシメ同時ニ其人ト為リヲ分別シ取ルベキハ之ヲ採リテ京ニ駐メ其他ハ草ニ優旨ヲ奬ハシ又帝ニ質問スベキ條件ヲ指導セリ而シテ康自身ハ宮内太監(即チ宦官)ト謀ヲ通シソノ楊趙等數人ニ利ヲ啗ハシ毎夜帝ト密會スルノ媒介ヲ為サシメ帝ニ親近シテ行政ノ變法ヲ奏シ翌日發スベキノ上諭ヨリ其他百度改正ニ關スル意見ヲ薦メテ之ヲ實行セシムルヿヲ勸メタリ

彼ハ又タ他ノ方面ニ於テ公然ノ手續ヲ履ミ制度改正ニ關スル上書ヲ為サシメタリ其上書中康等一派ニ屬スルヨリハ即チ康自身ノ意圖計畫ヲ他人ノ言ハシメタルニ過ギズ之レ康一人ニシテ之ヲ為ストキハ人目ヲ惹ク多ク怨ヲ構フ深シ故ニ康ハ碧點ニモ廣ク他言ヲ利用シテ之ヲ為カシメタリ又タ人意衆望ヲ得ンガ為メニハ學者ヲ利用スルノ有益ナルヲ考ヘ保國會ヲ組織シ天下ノ人士ヲシテ康ハ憂國ノ志士ナルヿヲ民間ニ豫告セシメタリ

蓋し康の着眼、上天子の要を下自党の強を示し民意を得て以て政權の手裡に壓斷せんの謀より惟た彼の慮る所は皇太后の聖明深慮なんと重望とを深く忌憚し又た滿人の常に漢人を淺下蹂躙し張勳等の最も嫌惡し者とを之を除却せんの企てたるより是し彼が今回の失敗の最も速かなりしゆへの原因なり

陰謀の露顯せしめたる主動者は蓋し袁世凱なりし、初め康皇帝に說くに目下政柄帝の掌裡に在りと雖も尚ほ皇太后の制掣を免れ能はず是し實に變法を施すに於て一大阻碍なり、茅二滿州出身者は皆な變法を悅ばずして陰に陽に之が妨害をなす、彼等が朝に立て政治に參與せんの間は維新の改革も其實行を期すべからず、實に言へばかるべし又た忍べからざる次第なれども國家の富強長久を謀らし為めに先づ皇太后を失ふの要あり既に太后なれば滿人は恰も其棟梁を失ひし均しく次に袁世凱の一味せしめ其軍を京に召し袁をして直隸の兵馬を指揮せんか故なり）一は北京の滿人と其軍隊（神機營）とを彈壓せしめん若し命を用に

サルモノアレバ即時正法を行ふの如此して初めて能く天下を聳動せんに足るの改革を成就せんを得ん右明白顧慮循環事を決せざれば不測の禍に沈て玉体に及ぶやも斗られず而して一方よりは譚嗣同等して八旗俸餉の裁減、改裝洋服の建白をなさしめ之に依て生じたる滿人の憤怨反動を利用して以て巧に帝に說き遂に實行を為す可きの先諸を得たり是より先き康は袁世凱に說くに革新事業の国益あるを大勢上止むべからざる所以を以て兵制改革の諸詢を名として屢袁を上京せしめ帝に親近せしめ尚ほ事を謀るに同意せしめんの必要あるを以て本月二日皇上に謁見せしめ彼に侍郎候補武科改革總理の任を以て其決心を堅ふせしめんとせり、越て五日再び彼が謝恩の為め謁見せしの時に於ても帝をして告るに實を以てし愈其斷行を促せしめたるも袁は此事の到底成効なきを看破し帝に諫奏したりと云ふ而して袁は即日滬車にて天津に下り時機切迫の旨を榮祿に申告せり此に於て榮祿は直に上京し之を軍機大臣剛毅等軍統領宗礼及に總理衙門大臣裕祿等滿州出身者と密

議シ皇太后ニ之ヲ密奏シ其運動ニ着手セシ即チ太后ヨリシテ帝ニ近侍セン
宦官楊趙ヲ召セシメ之等ヲ詰問シ彌〻實ヲ得タリ因テ直チニ康等一味徒
党ノ捕縛ニ着手セシメ而シテ帝ニ逼リテ之ヲ南海中(禁苑内)ニテ一宮殿ニ遷
シ諸門ヲ警戒シ不測ノ変ニ備フ蓋シ改革派カ潛ニ帝ヲ盜出セシヲ慮レリ
聞ク處ニヨレバ帝ハ此内ニ幽閉セラレ政務ニ預ルヲ得ス近侍ハ總テ交代セシメ更ニ
太后ヨリ八名ノ宦官ヲ派シテ帝ヲ守ラシムル而シテ帝ヲ誣フルニ恙アル旨ヲ以テシ
又下痢症ヲ患ヒタリト流布セシメタリ未タ帝躬ニ異変ナシト云フ最モ早晩崩御
アルカ若クハ幾何ヲ免ル能ハズ又皇太后ハ去ル廿八日各皇族ノ妃ニ命シ皇子ヲ
擁シテ昇殿スベキヲ命シタリト恐ラクハ皇嗣ヲ定メルノ準備ナランカ
半軍左翼長康ノ逮捕ノ為メ去ル二十一日戸部左侍郎張蔭桓ノ家ヲ囲
ミ家宅搜索ヲ行フ是レ前夜康カ我公使館ヨリ慌カニ張ノ家宅ニ入リタルヲ
知リタルカ故ナリ然レモ康ハ該處ニテ逮捕セラレズ此時張ハ總理衙門ニ出仕シテリ
タリ越テ廿四日張ハ其家屋ヲ封鎖セラレシ上没籍セラレシ本人ハ即時拘引ノ上

刑部ニ引渡サレタリ二十五日英公使ヨリ我公使エノ書面ニヨレバ
張ハ其翌日ヨリ以テ斬首セラレベシトノ通知ナリ林代理公使ハ之カ為メ英公使
ヲ其救助ニ尽力シタルノ結果廿九日上諭ヲ以テ已ニ張蔭桓居心巧
詐行跡詭秘趨炎附勢反覆無常トノ廉ヲ以テ新疆ニ護送シ該巡
撫ニ交付シ厳重ニ管理拘束セシムルトノ二ニテ終カニ一死ヲ免レタリ
康ハ去ル二十日我公使館ヲ訪問シ伊藤侯ニ面會セリ彼ハ此時既ニ事ノ敗ル
ヲ知リシヤ否ヤ不明ナレモ其帰途張蔭桓ヲ訪ヒタルトキハ既ニ之ヲ知リタルヤ明
カナリ彼ハ其時ヨリ踪跡ヲ暗マシ天津ニ出テ塘沽ヨリ怡生号ニ乗シ上海
ニ於テ我領事館ニ投シ後チ二隻摩克ニテ日本ニ渡航シタリト云フ
梁啓超ハ初メ我公使館ニ逃レ後チ天津ニ出テ領事館ニ投シ鄭領事等
之ヲ保護シテ白河ヲ下リタルニ濠船快馬ノ為メ逐跡セラレ殆ント免レ難キ場合ニ
迫リタルモ百方辯論ノ末之ニ曳カレテ塘沽ニ至リ此時鄭領事ハ頻リニ帽ヲ以テ
軍艦大島ヲ招キシニヨリ同艦ヨリハ端舟ヲ卸ロシテ之ヲ迎ヘ纔カニ危急ヲ免ル

今尚ホ同艦内ニアリ

主照ハ初メヨリ逮捕ノ沙汰ナレト雖モ康ト共ニ変ヲ成シタルヲ以テ或ハ禍ヒノ身及ンヲ恐テナラン本月廿二日夜イニ時頃本官方ニ投入セリ本官ハ彼カ来リタル所以ヲ尋ネシニ彼呉フルニテ犯シタル罪ナレト実ハ逮捕セラルヘキ沙汰アルヲ以テ之ヲ避ケ一切論被ハ未タ罪名ヲ帰ヒトクルニモ非サルヲ以テ其夜ノ本官方ニ入メタリ依テ其旨ヲ臨時ハ心理公使ニ告ケ置キタリ其翌日彼ハ小村方ニ移レリ此時ヨリ彼ハ一二皇上ノ安否ヲ憂慮シテ帝ト死生ヲ共ニセント欲スト云ヒ居レリ然ルニ其翌日徐致靖譚嗣同ノ逮捕セラルヽヲ聞ヤ否変休スト云ヒ因山平山二人ノ援ヲ以テ天津ニ下タリ見ヒ亦タ軍艦大島ニ投入セリ但シ彼ハ今日迄未タ逮捕ノ命象ラス

康有為ノ弟康廣仁及ヒ御史楊深秀軍機章京譚嗣同林旭楊銳劉光第ノ六名ハ逮捕セラレタル上去ル廿九日菜市口ニ於テ死刑ニ處セラル已等翰林院侍讀学士徐致靖ハ脩身禁錮林院編修湖南学政徐仁

壽ハ等職ノ上永久任官ゼレメス其他嫌疑尚ノ一時拘留セラレタルモノハ皆ナ放免セラレタリト云フ

原来譚嗣同ノ派ノモノ當内城ト城ヲ通シテ活レント二百余名アリ彼等ハ皇帝ヲ盗出セントノ企ヲ為シ廿四三ノ両日ニ於テ変ヲ発セント計画シタルモ逮捕ノ迅速ナリシ為メ遂ニ之ヲ行フヲ得ス見ス就縛者ノ利期ヲ逐カナラシメタル源因ナリ

裏也凱ハ此ノ変件ニ一時加担シタル形跡アリ彼カ性質トシテ反覆常ナキ彼カ雇教師ヨボーセヒ既ニ之ヲ評セリ果シテ彼ハ此際ヲ利用シテ其位置ヲ高メ又署理直隸総督ヒ洋大臣トシテ大ニ義望ヲ急ケ太后ニ親任ヲ得タルカ如クナルモ彼カ為ハ早晩其端ノ露サルヲ得ルヤ否ヤ今回栄禄カ軍機大臣ニ轉任シタルモ未タ詳ニ其位ヲ譲ラス栄禄カ総理衙門ヨリ直隸総督ニ急遽転任シタル如キ一時表世凱ニ栄位ヲ與ヘタルモノニ非スシテ軍ニ表カ帝都附近ニ優勢ノ兵カヲ掌握シ居ルヲ恐レタル表ハ機ヲ見テ変ヲ慶スル果彼ナレハ無論ニシテ満人ニ溺ルヽモノニ非ス向後帝都附近ノ端緒ハ或ハ新

尽陸軍ニ於テ其端緒ヲ啓スルヨリカ